

1. 単元名 「面積」
2. 単元目標

知識・技能	○ 底辺と高さの意味を理解し、公式を用いるなどして三角形や四角形の面積を求めることができる。
思考・判断・表現	○ 既習の面積公式をもとに、三角形や平行四辺形などの面積を工夫して求めたり、公式をつくらしたりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 既習の面積公式をもとに、三角形や平行四辺形などの面積の求め方や公式を進んで見いだそうとする。

3. 学習指導計画（4時間目／全13時間）

- (1) 三角形の面積（3時間）
- (2) 平行四辺形の面積
 - ① 平行四辺形の求積の仕方（本時）
 - ② 平行四辺形の面積公式の導出と適用
 - ③ 高さが外にある三角形や平行四辺形の求積
- (3) 台形・ひし形の面積（2時間）
- (4) 面積の方のくふう（2時間）
- (5) 面積と比例（1時間）
- (6) 学びのまとめ（1時間）

4. 課題解決のための手だて

本学級の児童は、学習に対して真面目に取り組んでいる。しかし、半数以上の児童が算数に対して苦手意識をもっており、既習の学習内容が定着していない児童が多い。そのため、問題解決への見通しがもてなかったり、個人思考でつまずいたりすると、手が止まることがよく見られる。また、自分の考えに自信がないことから、主体的ではなく受動的に学習に取り組む様子が、どの学習でも多く見られている。そこで本単元では、児童一人一人が「解けそうだな」となるように確実に見通しをもたせること、個人思考でつまずいても児童が主体的に問題解決へ取り組めるようにすることが、必要であると考え、以下の手だてを講じることとする。

【手だて1】短時間で見通しをもたせるための工夫

- 児童一人一人が見通しをもてるようにするために、既習の学習内容とのつながりを意識した導入を行う。既習の学習内容を全体で振り返り、まず課題解決のための考え方を見通す。さらに、どのように既習の学習内容を活用していけばよいか、解決のための方法まで見通しをもたせる。その際には、ペアで話し合う場を設けることで、一人一人が確実に見通しがもてるようにする。さらに、単元導入時に単元の見通しを全体で考えることで、児童が主体的に学習に取り組めるようにしていく。

【手だて2】個人思考の際の児童への第一歩

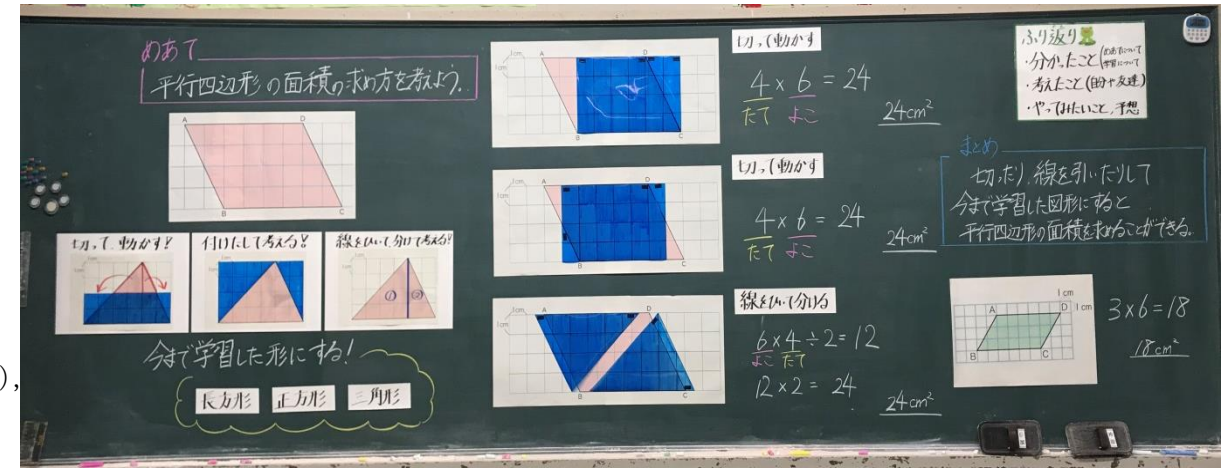
- 個人思考では、自分の考えを試すことができるように、切ったり書きこんだりするなど、操作ができる図形カードを準備する。また、図形カードを半透明のものにして、重ねることができるようにすることで、問題図との変化を比べやすくし、「どのように動かしたのか」児童が視覚的に捉えやすくできるようにする。さらに、個人思考の際に手が止まる児童が予想されるため、児童それぞれが思いついた方法への励ましや声掛けと、次への指示について、教師が計画を立てておく。一人一人の思考過程を見て、その思考に応じた称賛や助言を的確に行っていく、答えを導く途中段階であっても考えを部分肯定していくことで、自信をもてるようにする。考えをもつことができている児童には、考えを引き出す声かけをする際に、個々に応じたヒントカードを提示することで、主体的に学習に取り組めるようにする。

【手だて3】自分の学びを振り返り「できた」「分かった」を実感する工夫

- 学習問題後、本時の振り返りを全体で行い、考え方の共通点や既習との相違点などについて考えさせる。その後、振り返りの視点を示し、それをもとにまとめ・振り返りを児童個人で行い、自分の考えや学習を振り返っていく。個人でまとめ・振り返りを行った後、児童の言葉をもとに本時のまとめを全体で行う。このようにすることで、自分自身の学びや自己の変容、児童の思考を表現しやすいようにする。さらに、本時の学びを生かしてできる適用問題を設定して解かせることで「わかった」「できた」を実感できるようにしていく。適用問題後は、学習の達成度を児童に点数化させることで、児童の変容を教師が見取ることができるようにする。

5. 本時の学習 令和2年 10月29日（木）
第3校時 於：5年1組教室

- (1) 主眼 平行四辺形を三角形や長方形に変える操作活動を通して、既習の求積可能な図形の面積の求め方に帰着すればよいことに気づき、平行四辺形の面積の求め方を考えることができるようにする。
- (2) 準備 プリント、既習学習のフラッシュカード、問題の図形、半透明図形のカード（児童用）、発表用図形、適用問題の図形、ICT 機器
- (3) 展開



つかむ・見通す	個人思考	集団思考②	振り返り・まとめ	適用問題
<p>1. 本時の問題を知り、めあてをつかむ。</p> <p>めあて 平行四辺形の面積の求め方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の学習内容である長方形や三角形の求積方法を全体で振り返ることで、本時の学習の平行四辺形でも、三角形や長方形の形に変えれば、求めることができそうだと見通しをもたせる。 ○ 「どのように動かせば、三角形や長方形になりそうか」をペア・全体で考え、児童全員が個人思考への見通しをもてるようにする。 	<p>2. 平行四辺形の面積の求め方を考える。（個人思考）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 式と図を関連付けて考えることができるように、どのように形を変えたか、矢印などを図に書かせ、操作過程を残すように伝える。 ○ また、児童に半透明の図形カードを与え、「どのように動かしたか」、視覚的に分かりやすいようにする。 <p>【予想される児童の考え】</p> <p>① 線を引いて、2つの三角形に分けて求めている</p> <p>6×4÷2=12 12×2=24</p> <p>受容：三角形が2つできたね。 指示：三角形の底辺と高さは、どこになるかな。</p> <p>② 切って動かし、長方形にして求めている</p> <p>4×6=24</p> <p>受容：長方形の形ができたね。 指示：どの長さを使って求めるといいかな。</p> <p>③ 切って動かし、長方形にして求めている</p> <p>4×6=24</p> <p>受容：長方形の形ができたね。 指示：たてと横の長さはどこだろう。</p>	<p>3. 自分たちの考えを深め合う。（ペア）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ペアで自分の考えを伝え合う。その際、途中段階であっても「どのように動かしたか」、「どんな形にしたか」の視点を与えることで、互いの考えを明確に伝え合うことができるようにする。 <p>（全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ICT を活用して発表児童の考えをテレビに映し出し、説明させる。 ○ 発表後は、「どのように動かしたか」「どんな形にしたか」、「どこの辺を使ったか」に視点を置き、考え方を明確にできるように話し合い、全体で確かめていく。 ○ 話し合いを通して、式と図、言葉に関連付けながら全体で確認していく。 	<p>4. 振り返り・まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の様々な考え方の共通点や既習との相違点について全体で考え、学習を振り返る。 ○ 学習していない形の面積でも形を変えることで、既習の図形の求積方法を使って求められることができることを確認する。 ○ 本時の学びを個人でまとめ、振り返ることで、自己の変容に気付かせたり、学習内容の理解を深めたりするとともに、自分の活動に対する自信や次時への意欲をもつことができるようにする。 ○ 児童の言葉をもとに、全体で本時の学習をまとめる。 <p>振り返り 今日の学習で分かったことは、切ったり線を引いたりして、今までに学習した図形に変えることで、平行四辺形の面積を求めることができるということだ。私は、切って動かす方法を使ってした。すると、平行四辺形が長方形になって、縦×横で求めることができるので、4×6で24cm²になる。今日の学習を通して、色々な考え方があったけど、どの考え方も図形の縦と横の長さを使っているのだから、平行四辺形を求めるためには、縦と横の長さが分かれば良いのではないかと考える。</p> <p>まとめ 切って動かしたり、線を引いたりして、今までに学習した図形にすることで、平行四辺形の面積を求めることができる。</p>	<p>5. 適用問題をし、本時の学習の達成度を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時で見つけた求積の仕方を適用問題で試し、児童が「わかった」「できた」と実感できるようにさせる。 ○ 本時の学習の達成度について自己評価を行う。 ○ 振り返りの際は、振り返りのポイントを提示する。

